

2013年9月26日

マツダ財団 2013 年度の研究助成を決定 —サステナブルで心豊かな社会を目指して 科学技術の振興と青少年の健全育成に関する研究 30 件を助成—

公益財団法人マツダ財団(以下、マツダ財団)は、2013 年度の研究助成を決定しました。

今年度は、全国の大学・研究機関などから 330 件の応募があり、その中から「科学技術振興関係」として 25 件に助成金額 2,800 万円を、また「青少年健全育成関係」として 5 件に助成金額 400 万円の研究助成を決定しました。合計 30 件、総額 3,200 万円となります。

今年度の研究助成は次の通りです。

1. 科学技術振興関係の研究助成は、科学技術の発展に寄与する優れた 25 件の研究に決定しました。助成金額は 2,800 万円です。マツダ財団では従来から、次世代を担う若手研究者および未来をひらく芽となる萌芽的研究を優先して助成を行っており、今回、40 歳以下の若手研究者への助成割合は 72%(前年度 83%)となりました。また、マツダ財団が重点をおく「循環・省資源に貢献する研究」では、「キチンナノファイバーで補強した透明でしなやかな、高強度、高弾性、低熱膨張なプラスチックの製造」(鳥取大学)、「低炭素素材製造プロセスを対象とした気液流動の粒子法シミュレーション」(北海道大学)など、エネルギーや物質の循環・省資源に取り組みサステナブルな社会に貢献する 16 件が選ばれました。このほか「固有ジョセフソン接合を用いた光検出器の開発と血管イメージング応用」(富山高等専門学校)など、社会から解決が求められている技術課題への道筋を先進的な科学技術研究によって切り開こうとする優れた研究が選ばれています。
2. 青少年健全育成の研究助成では、助成 5 件、助成金額は 400 万円です。昨年度に引き続き、青少年健全育成にかかわる市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を助成対象としました。今回は、「若者の親認識変容プログラムの開発と効果測定」(広島国際大学)といった、若者の自立と親子関係に焦点を当てた研究や、「大学生を対象とした子育て・子育て支援への参加学習プログラムの開発」(弘前大学)といった、育児支援を軸にした大学生の社会参加プログラム開発など、青少年をはじめとして人びとが心豊かに生きることのできる社会づくりに取り組む研究が選ばれています。

なお、2014 年度青少年健全育成のための市民活動支援については、10 月から広島、山口両県で募集を開始します。

マツダ財団は、科学技術の振興と青少年健全育成のための助成などを行うことにより、世界の人々が共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的として、1984 年 10 月に発足しました。2010 年 11 月に内閣府より公益法人への移行の認定を受け、公益財団法人マツダ財団として更なる社会貢献に取り組んでいます。これまでの助成実績は今回を含め合計 1,779 件、14 億 6,780 万円となります。

今後一層社会のお役に立てるよう、マツダ財団はこれからも取り組んでまいります。

以上

第 29 回(2013 年度)マツダ研究助成一覧

マツダ財団ホームページ: <http://mzaidan.mazda.co.jp/>

【科学技術振興関係】

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

地 域	研 究 題 目	研 究 代 表 者(役職は応募時)	助成 金額 (万円)
北海道	伝達空間距離の制御によるキャリア移動度可変型有機単分子ナノ電線を目指した π ディスク積層らせん構造の創成	マワタリ ヤステル 馬渡 康輝 室蘭工業大学大学院工学研究科助教	100
北海道	低炭素素材製造プロセスを対象とした気液流動の粒子法シミュレーション ◇	ナツイ シュンゴ 夏井 俊悟 北海道大学大学院工学研究院助教	110
宮城県	共晶体ファイバー構造を応用した、超高分解能、高感度中性子イメージング装置の開発 ◇	カマダ ケイ 鎌田 圭 東北大学未来科学技術共同研究センター准教授	110
秋田県	遠赤外線カメラに用いる焦点可変機能を有する新規液晶レンズの創製に関する研究	カワムラ マレノリ 河村 希典 秋田大学大学院工学資源学研究所講師	110
東京都	液体のぬれが及ぼす構造体変形現象のマクロスケール観察による定式化と無次元数を用いたマイクロ・ナノデバイスへの適用性に関する研究 ◇	タカハシ コウスケ 高橋 航圭 東京工業大学大学院理工学研究科助教	120
東京都	スマート熱制御のための近接場効果を用いた MEMS 熱スイッチに関する研究 ◇	ウエノ アイ 上野 藍 東京大学大学院工学系研究科特任研究員	110
神奈川県	塗布技術を用いた小型・高利得希土類-金属ナノクラスタ添加ポリマー導波路レーザの作製 ◇	イシグレ タカアキ 石樽 崇明 慶應義塾大学理工学部准教授	100
新潟県	時間分割を用いた多パルス列干渉法による絶対長さ計測 ◇	イドウン 韋 冬 長岡技術科学大学工学部助教	100
富山県	固有ジョセフソン接合を用いた光検出器の開発と血管イメージング応用	インダ ヒロキ 石田 弘樹 富山高等専門学校准教授	200
富山県	インジウムフリー透明導電膜の作製とその有機デバイス応用 ◇	ナカ シゲキ 中 茂樹 富山大学大学院理工学研究部准教授	100
山梨県	超伝導体を用いた次世代移動体通信用フィルタの研究 ◇	セキヤ ナオト 關谷 尚人 山梨大学大学院医学工学総合研究部助教	100
滋賀県	液晶性を有する有機・無機ハイブリッド材料の開発とブルー相への融合 ◇	カネコ コウスケ 金子 光佑 立命館大学生命科学部助教	100
京都府	マイクロバブルを反応場とするナノ粒子成長	トクダ ヨウメイ 徳田 陽明 京都大学化学研究所准教授	100
京都府	MOD 法 BaTiO ₃ 薄膜を用いた強誘電体分極特性に基づく抵抗変化型不揮発性メモリ用抵抗ヒステリシス特性の解明と改善	ノダ ミノル 野田 実 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授	100
大阪府	ナノ材料の大面積印刷技術による高性能人工電子ヒゲの開発	タケイ クニハル 竹井 邦晴 大阪府立大学大学院工学研究科助教	100
大阪府	ナノグラフェンのアームチェアエッジへの反応検討と π 拡張による機能化 ◇	ニシウチ トモヒコ 西内 智彦 大阪大学大学院理学研究科助教	100

兵庫県	生体分子を模倣した新規光応答性分子モジュールの開発	◇	サカタ ヨウコ 酒田 陽子 神戸大学大学院理学研究科特命助教	110
鳥取県	キチンナノファイバーで補強した透明でしなやかな、高強度、高弾性、低熱膨張なプラスチックの製造	◇	イフク シンスケ 伊福 伸介 鳥取大学大学院工学研究科准教授	150
岡山県	DIC と FEM を結合させた高効率かつ高精度なポリマー材のモデリング手法の開発	◇	ウチダ マコト 内田 真 岡山大学大学院自然科学研究科助教	110
広島県	大腸 NBI 拡大内視鏡画像診断支援のための FPGA を用いたハイビジョン画像に対するリアルタイムハードウェア CAD システムの開発		コイデ テツシ 小出 哲士 広島大学ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 准教授	100
徳島県	フォトニックバンドとプラズモニクスのハイブリッド効果による強力な電場増強効果を起こすナノ構造の作製	◇	モリ アツシ 森 篤史 徳島大学 大学院ソシオテクノサイエンス研究部講師	140
福岡県	高効率な酸化物シンチレータの創製	◇	ヤナギダ タカユキ 柳田 健之 九州工業大学 若手研究者フロンティア研究アカデミー准教授	110
福岡県	協同相互作用に基づく超分子ポリマー材料の開発		シュンドウ アツオミ 春藤 淳臣 九州大学大学院工学研究院助教	110
佐賀県	微視構造に起因する不確かさを考慮したマグネシウム合金の変形双晶モデリング		タダノ ユウイチ 只野 裕一 佐賀大学大学院工学系研究科准教授	110
長崎県	強磁性金属層と反磁性金属層の交互積層型多層ナノワイヤー配列素子の CPP-GMR 効果	◇	オオガイ タケシ 大貝 猛 長崎大学大学院工学研究科准教授	100
科学技術振興関係 計 25 件			助成金総額(万円)	2,800

【青少年健全育成関係】

地域	研究題目	研究代表者(役職は応募時)	助成金額(万円)
北海道	体験活動における「あこがれ」の構造が青少年の自己肯定感の向上や学びを促進する仕組みの分析と考察	タニザキ マコト 谷崎 誠 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家主任	80
青森県	大学生を対象とした子育て・子育て支援への参加学習プログラムの開発	フカサク タクロウ 深作 拓郎 弘前大学生涯学習教育研究センター講師	90
茨城県	感情のコントロールが困難な学生に対する認知行動療法的スキルトレーニングプログラムの効果の検証—STEPPS の実施可能性と有効性に関する研究—	フジサト ヒロコ 藤里 紘子 筑波大学人間系特任助教	80
大阪府	青少年のエンパワーメントとパフォーマンス・アーツの関係について—計量経済学からのアプローチ—	トミタ ダイスケ 富田 大介 大阪大学大学院国際公共政策研究科特任助教	80
広島県	若者の親認識変容プログラムの開発と効果測定	オオシマ キヨミ 大島 聖美 広島国際大学心理科学部助教	70
青少年健全育成関係 計 5 件			助成金総額(万円) 400